

販売するようになる」と、女性会員も増え、25年が経った今では40人に増えています。

平成11年には、市の「レストハウス天滝」を借りて運営を始め、「きびうどん」や「おやき」などの手づくり料理が好評を得ています。また、市が設置した2箇所のトイレ、キャンプ場等の施設管理も受託しています。

## 「ビバホール企画集団」のホール運営活動

ビバホール企画集団（井上弘代表、以下「企画集団」という）は、平成2年6月にオープンしたビバホールの文化ボランティア団体として、同年6月1日に設立されました。以来、行政との協働でコンサート等の自主事業の開催に関わってきました。

ビバホールは、旧養父町が住民の強い要望を受けて整備した音楽専用ホールです。建設当時、町は統合中学校の建設や下水道整備などの推進を図っている最中で、財政的に極めて厳しい状況にありました。このため、たとえ建設ができなくても、職員を置く余裕はありませんでした。しかし、住民の熱心な要望を無視することはできず、住民と行政で整備



ホールの自主事業を担う「ビバホール企画集団」

委員会を設置して検討を行い、336人収容の小ホールを整備しました。この際、委員会に集まった住民から「財政が厳しいのなら、住民も運営に参加しよう」という声が上がりました。こうしてつくられたのが、ホールの自主事業を担う企画集団です。

活動内容は、コンサート等の企画から出演者の交渉、ポスターやチラシの作成と配布、チケット販売、もぎりやケータリング等に及びます。活動にかかる財源は、チケット収入と市からの補助金で賄っています。

これまでに開催したコンサート等は、130事業になります。その中でも、特筆すべきは、ビバホールチエ

ロコンクールの開催です。このコンクールは、平成6年の但馬の祭典に協賛して始められたもので、主催は行政と住民でつくる「チエロコンクール実行委員会」です。しかし、実際の運営は企画集団と150人の住民ボランティアで運営委員会を組織して行っています。また、コンクールの翌年には、市から委託を受けて、東京で1位入賞者のリサイタルを開催しています。

## 「しんしん倶楽部」のまちづくり活動

八鹿町新町区のしんしん倶楽部（岡山昇代表）は、「うだつ」のまち並み保存と地区の活性化を目的として平成12年11月にまちづくりの研究活動を始めました。その後、平成13年4月に「新町まちづくり協議会・しんしん倶楽部」に改称されました。設立当初から、



さまざまな活動に取り組んでいる「しんしん倶楽部」

街路に花をかざる活動や、空き店舗を借りて各家庭の古い道具などを展示する「新町三博物館」を開催するなど、活発な活動を行っています。現在では「七夕祭」や「地藏祭」、「名月芋煮会」、各家をイルミネーションで飾る「しんしんルミナリエ」などを通じて、区内外の交流を図っています。

その他にも、昨年の台風23号災害の反省から「自分たちのまちは自分たちで守ろう」と話し合い、土のう用の砂置き場や、危険箇所や避難場所を示した「防災マップ」を手づくりで作成するなどの取り組みを行っています。

今年の10月には、地域の交流拠点として、空き店舗を手づくりで改装して「ふれあい交流サロン」をオープンさせ、ミニ文化祭、絵手紙や薫製の講習会などを企画・実施して、好評を得ています。